

令和 6 年度大阪市イノベーション促進評議会 会議要旨

1 日時

令和 7 年 1 月 21 日（火曜日）16 時 10 分～17 時 37 分

2 場所

大阪イノベーションハブ（O I H）、及びW e b

3 出席者

北岡委員長、岡委員、フォーリー委員、山本委員

事務局（米倉部長、田口課長、栗村課長代理、服部課長代理ほか）

4 議題

（１）大阪市グローバルイノベーション創出支援事業にかかる最近の主な取組みについて

（２）今後の取組について

5 会議要旨

議題（１）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

○海外への進出・海外連携について

- ・ディープテック企業を支援する際には、通常のスタートアップ支援と異なり、パートナー探しが肝要であり、海外での PR を行う場合には、渡航前からパートナー探しの準備を進めていくべき。
- ・日本以外での上場であれば、比較的早くユニコーンになる可能性はある。しかしながら、上場後すぐに退場してしまうケースも見受けられるため、そういったリスクマネジメントも含めて支援を進めた方がよい。
- ・ユニコーンなどスタートアップの成長支援についてはいろいろな意見があるが、着実に世界と繋がり、グローバルな形で成長していくことが良いのではないか。
- ・万博の開催は、海外のスタートアップや VIP との連携を進めていく契機となるので、今から連携に向けて準備を進めていくのが良い。来日の際は、大阪の大学も見学してもらえれば技術の PR にも繋がる。

○トッププロモーションについて

- ・知事や市長がスタートアップとの対談やイベント登壇等、プロモーションを行うことは地方自治体の取組として、PRにつながるので継続的に行うべき。
- ・女性のキャピタリスト・女性経営者が増えていないため、その点、大阪が政策的に意識しているということを、知事や市長からアピールをしていただければ良いのではないかと。

○その他

- ・スタートアップの拠点について、大阪の開発状況も鑑みながら、特定の分野が集積するエリア（例えば、中之島には医療を中心としたクラスター等）を構築すると新しいムーブメントを起こせるのではないかと。
- ・在阪スタートアップの業種等の経年的な変化について、コンソーシアムとして把握を行うことができれば、スタートアップの状況が客観的に見え、効果的な支援につながるのでは。

議題（２）に関する事務局の説明に対し、各委員より以下のとおり意見があった。

[主な発言内容]

○グローバルへの展開

- ・新たなグローバルスタートアップイベントの開催や海外との連携を深めるにあたっては、海外のイベントに職員が赴き、海外の関係者との繋がりを構築することが役立つのではないかと。
- ・「大阪ブランド」について、グローバルではなく、ローカル色が強いキャッチコピーに思える。神戸や京都、奈良や滋賀も実は大阪を向いており、関西や日本全体が発展できるようなキーワードを検討してもいいと思う。

○今後の事業展開への示唆

- ・カーボンニュートラル分野では大きなお金が動いているので、カーボンニュートラルに特化したVCのサミットを開催するのはいかがかと。
- ・OIHの機能見直しにあたっては、見た目としても良い施設となるように検討されたい。
- ・既に銀行や大学等に関西地域のネットワークは構築されている。既存のネットワークの見える化を、府知事・市長も広報的に出ていただきながら進めてほしい。